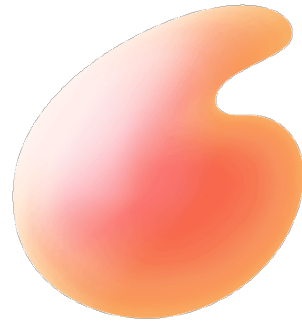


資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けて



コスモ・バイオ株式会社

(証券コード：3386)

2024.8.6

www.cosmobio.com

1. エグゼクティブ・サマリ

2. 企業価値向上に向けた現状分析

- 長期業績の振り返り
- 資本市場評価の当社認識
- 資本コストの現状と今後の方向性

3. 企業価値向上に向けた取り組み

- 企業価値・株式価値向上に向けて
- STEP 0 ステークホルダー・エンゲージメントの強化
- STEP 1 株主還元の強化/バランスシート最適化
- STEP 2 IT活用による商社ビジネスのグローバル化
- STEP 3 新規ビジネス創出による収益源の拡大
- キャピタル・アロケーション方針

目次

1

エグゼクティブ・サマリ

2

企業価値向上に向けた現状分析

3

企業価値向上に向けた取り組み

エグゼクティブ・サマリ

■ ROE8%以上の達成とCoE*の低減を実現し、早期にPBR1倍以上の株価水準を目指す

STEP 0 ステークホルダー・エンゲージメントの強化・・・p.12-13

- 当社は現状PBR1倍割れの状態で推移。改善に向け、投資家との情報の非対称性解消が重要と思料
- IR手段及びコンテンツの両軸での改善を推し進め、資本コスト低減を図る

STEP 1 株主還元の強化/バランスシートの最適化・・・p.14

- 今期よりDoEを配当指標として導入し、DoE3.5%と配当性向60%のいずれか高い方を基準とした配当を実施
- 業績・経営環境に応じた機動的な資本政策の一環として、総額3億円の自己株式取得を実施

STEP 2 IT活用による商社ビジネスのグローバル化・・・p.15-16

- グループ間データベース共通化及び生成AI等の活用によるデジタルマーケティングの実装により、商社ビジネスのグローバル化及び適切なプライシング等による高収益体質を構築

STEP 3 新規ビジネス創出による収益源の拡大・・・p.17-18

- 鶏卵バイオリアクター事業を核とした新規ビジネス創出により、新たな収益源の獲得を企図

*CoE : Cost of Equity (株主資本コスト)

目次

1 エグゼクティブ・サマリ

2 企業価値向上に向けた現状分析

3 企業価値向上に向けた取り組み

長期業績の振り返り

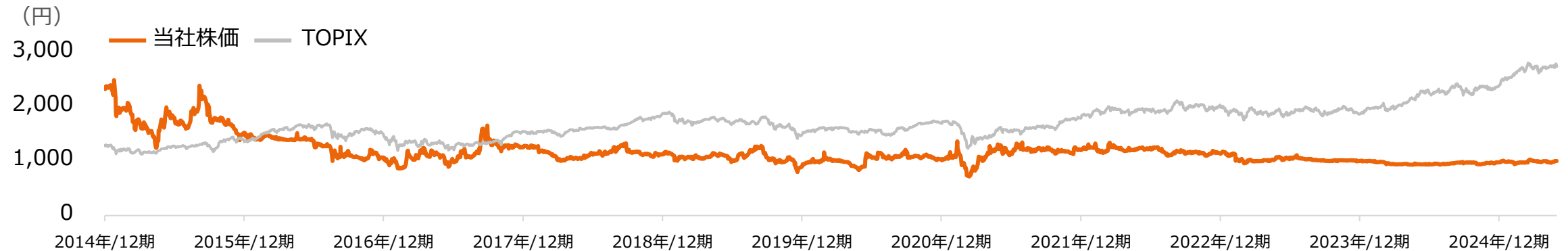
■ 当社利益は為替変動の影響を受けやすいが、実際には長期で着実な事業成長を実現と認識

(百万円)	2014/ 12期	2015/ 12期	2016/ 12期	2017/ 12期	2018/ 12期	2019/ 12期	2020/ 12期	2021/ 12期	2022/ 12期	2023/ 12期
売上高	7,235	7,357	7,427	7,068	7,261	7,590	8,092	9,231	9,553	9,340
営業利益	162	200	514	193	328	405	752	1,048	816	519
親会社株主に帰属 する当期純利益	201	230	254	237	260	237	674	737	517	442
ROE (%)	3.3	3.8	4.2	3.8	4.0	3.5	9.5	9.7	6.5	5.4
参考： 通期為替レート (ドル円)	106	121	111	112	110	109	107	108	128	140
参考： 親会社USドル建 仕入構成比 (%)	62.0	64.5	64.9	60.1	57.3	58.3	60.0	61.5	60.6	64.1

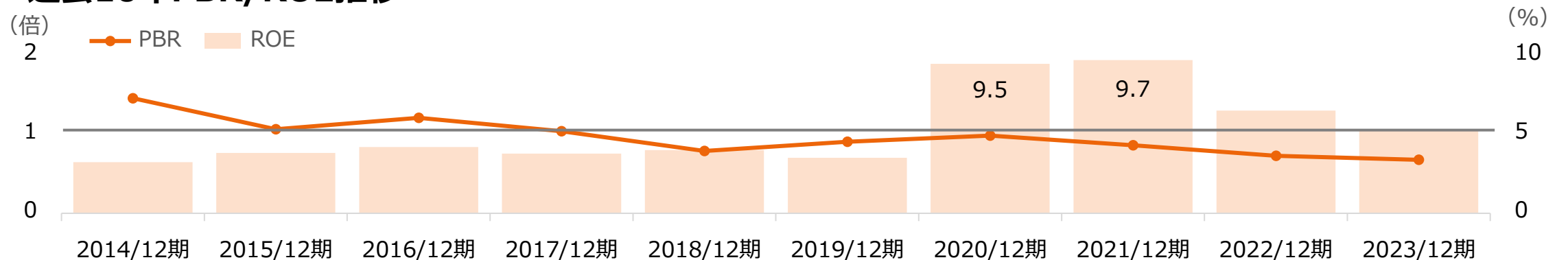
資本市場評価の当社認識

- ROE8%超えとなる期があるも、PBRは1倍割れの状態で推移
- ステークホルダー・エンゲージメント強化による情報の非対称性の解消が重要と認識

過去10年株価推移



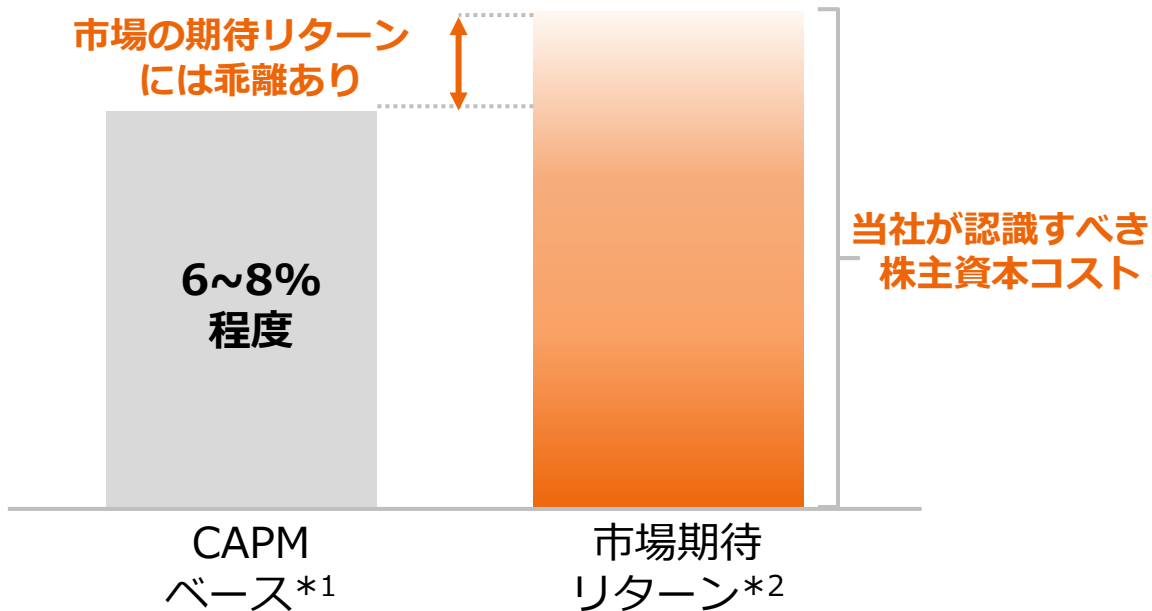
過去10年PBR/ROE推移



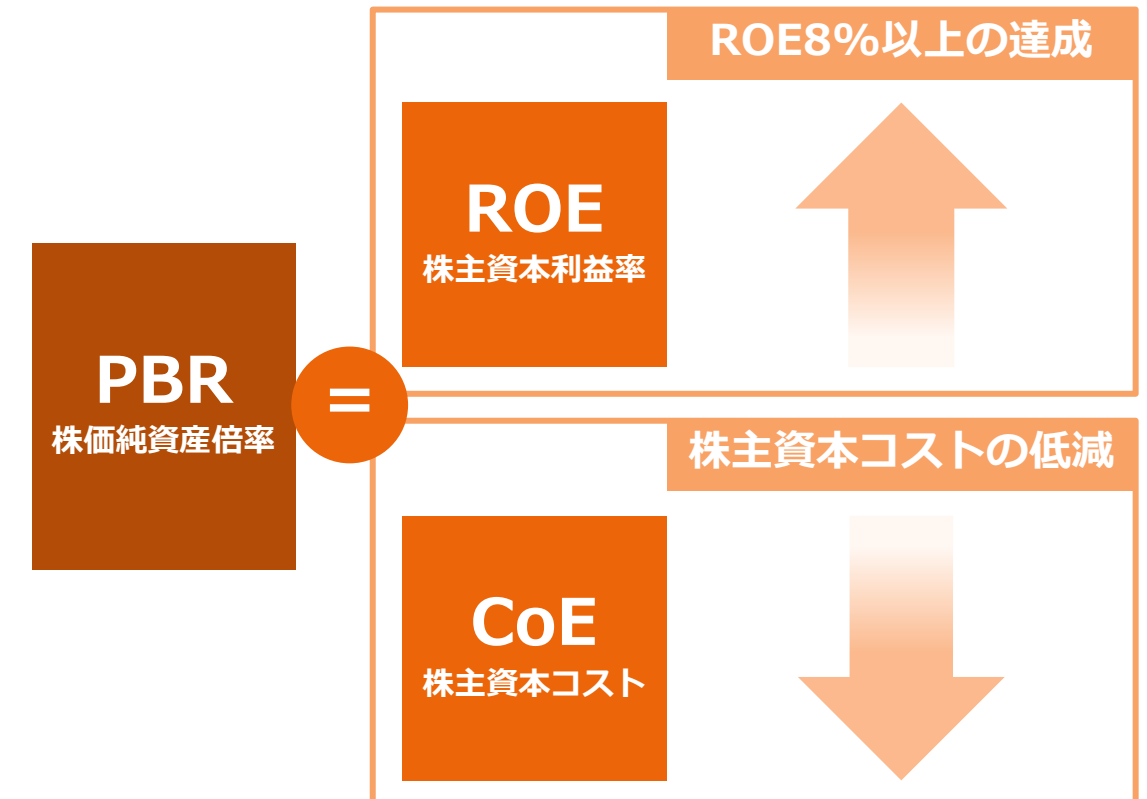
資本コストの現状と今後の方向性

■ PBR1倍以上の達成に向け、CoE低減と円安環境下でのROE8%早期達成の両軸で改革を推進

■ 株主資本コスト



■ PBR改善に向けて



*1 : リスクフリーレート+ β ×市場リスクプレミアム+サイズプレミアム

*2 : 市場評価に基づく資本コスト $\approx$ PERの逆数及び機関投資家調査結果を総合的に勘案

目次

1

エグゼクティブ・サマリ

2

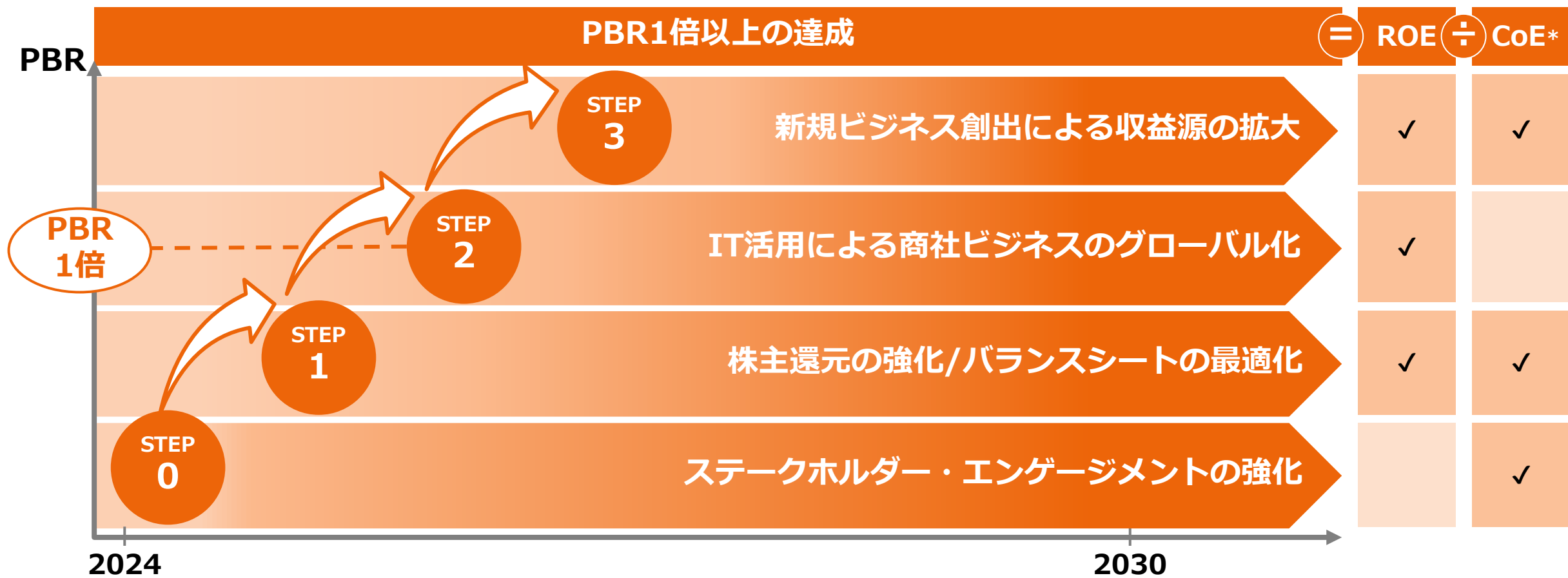
企業価値向上に向けた現状分析

3

企業価値向上に向けた取り組み

企業価値・株式価値向上に向けて

■ STEP 0/1を第一の矢とし、第二の矢であるSTEP 2の実施段階にてPBR1倍の達成を目指す



PBR改善に向けた施策

					改善要素と各施策の関係性			
		改善要素	現状 (FY2023)	計画 (FY2028)	STEP 0 対話の強化	STEP 1 株主還元強化	STEP 2 グローバル化	STEP 3 新規ビジネス
PBR	ROE	営業利益率	5.6%	6.0% ~ 7.0%			✓	✓
		総資産回転率	0.9回	0.9回		✓		
		財務レバレッジ	1.3倍	1.3倍 ~ 1.5倍		✓		
	PER	CoE (株主資本コスト)	8%以上	—	✓	✓		✓
		期待成長率	新規ビジネス創出による 成長期待の醸成		✓			✓

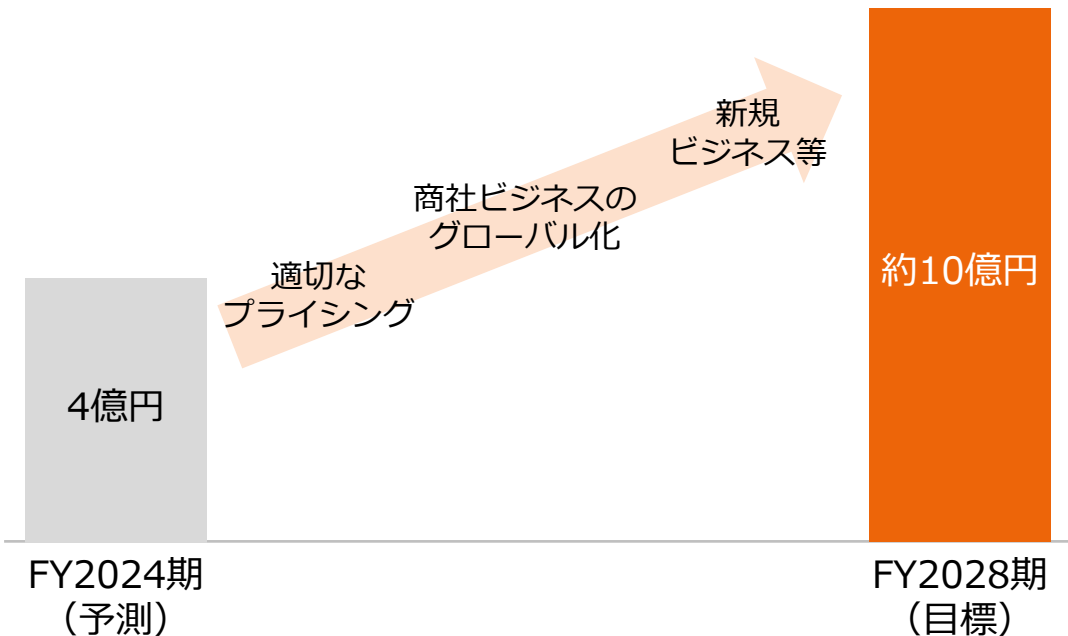
ROE8%達成シナリオ

ROE8%以上の達成

R

営業利益の向上

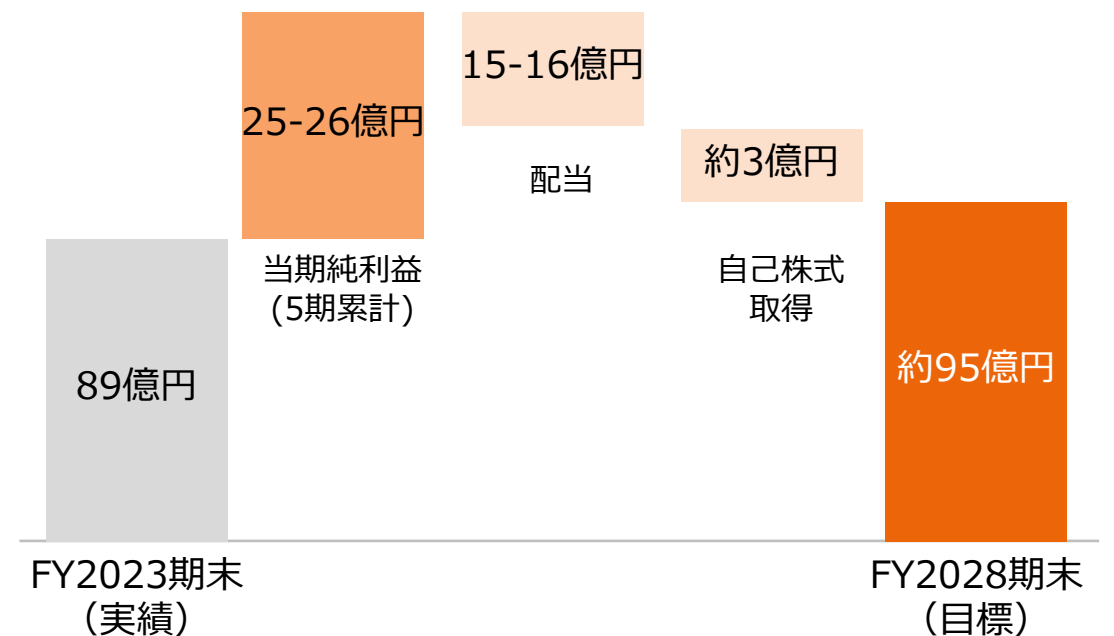
商社ビジネスのグローバル化/高収益体質への転換により
営業利益6億円の増加を目指す



E

自己資本の増加抑制（2024-2028年度累計）

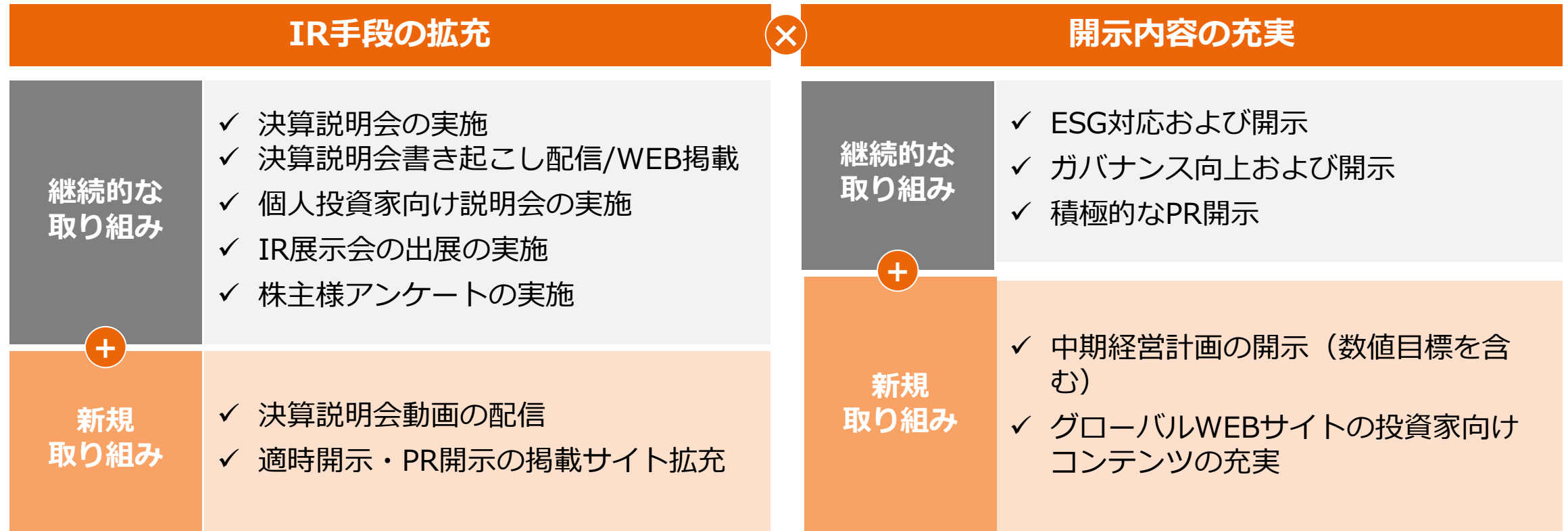
株主還元の強化により、
自己資本の増加を抑制



STEP 0

ステークホルダー・エンゲージメントの強化：IR活動の強化

- 情報の非対称性解消に向け、IR活動は手段・コンテンツとともに拡充し、投資家との対話促進による株主資本コストの低減を目指す



STEP 0

ステークホルダー・エンゲージメントの強化：サステナビリティ活動の推進

■ ライフサイエンスにおいて研究者に信頼される事業価値を高め、技術・商品/サービスを通して社会に貢献すべく事業を展開し、企業価値向上を目指す

Environment

環境に配慮した事業活動を推進し、
 研究者の信頼感の醸成を企図

製造



- 研究開発・製造施設での排水基準の遵守
- 研究/製造プロセスでの資材等の適切管理の推進

卸

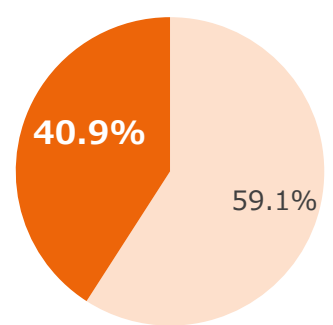


- 配送業務工程や過剰包装の見直しに向けた取り組み
- 商品パッケージの素材変更（FSC認証紙）

Social

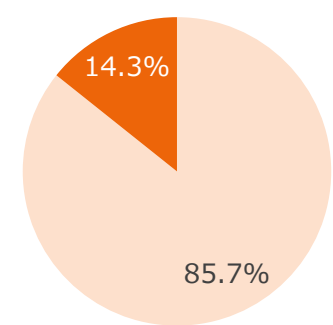
女性管理職比率の高さは特別なことではなく自然な結果であり、性別に関係なく成長できる環境と企業文化がある

女性管理職比率



2023年実績

女性役員比率

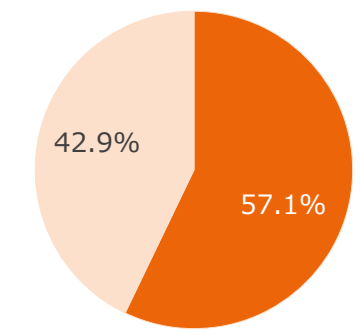


2023年実績

Governance

取締役会の多様性確保による、
 ガバナンス体制の強化

社外取締役比率



2023年実績

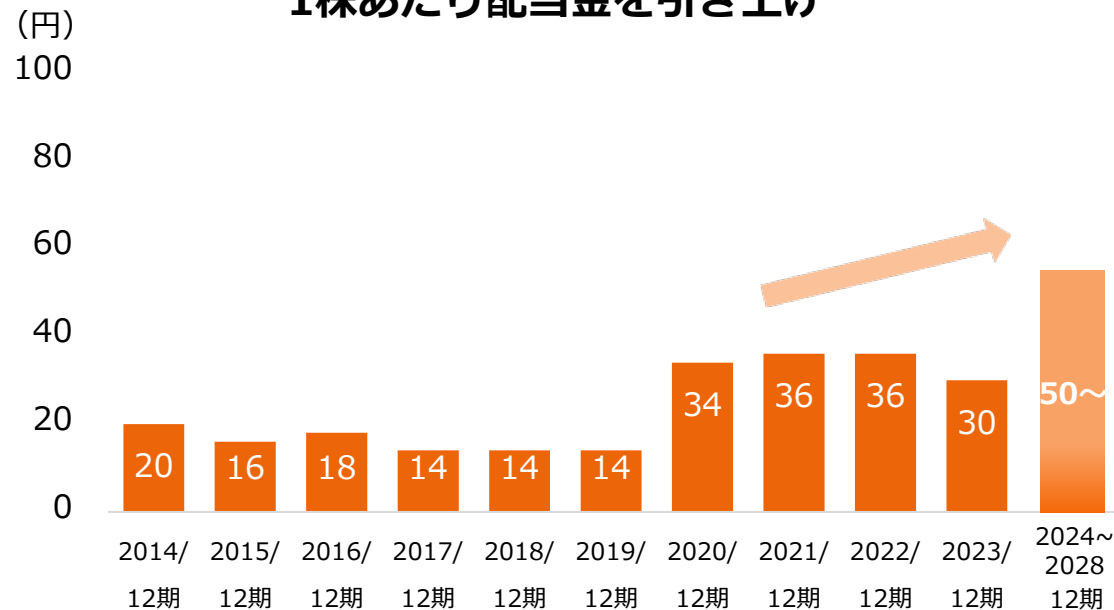
STEP 1

株主還元の強化/バランスシート最適化：DoEの導入及び自己株式取得

- 更なる安定配当のため、今年度よりDoE（株主資本配当率）を配当指標として導入
- 業績・経営環境に応じた機動的な資本政策の実行の一環として、自己株式取得を実施

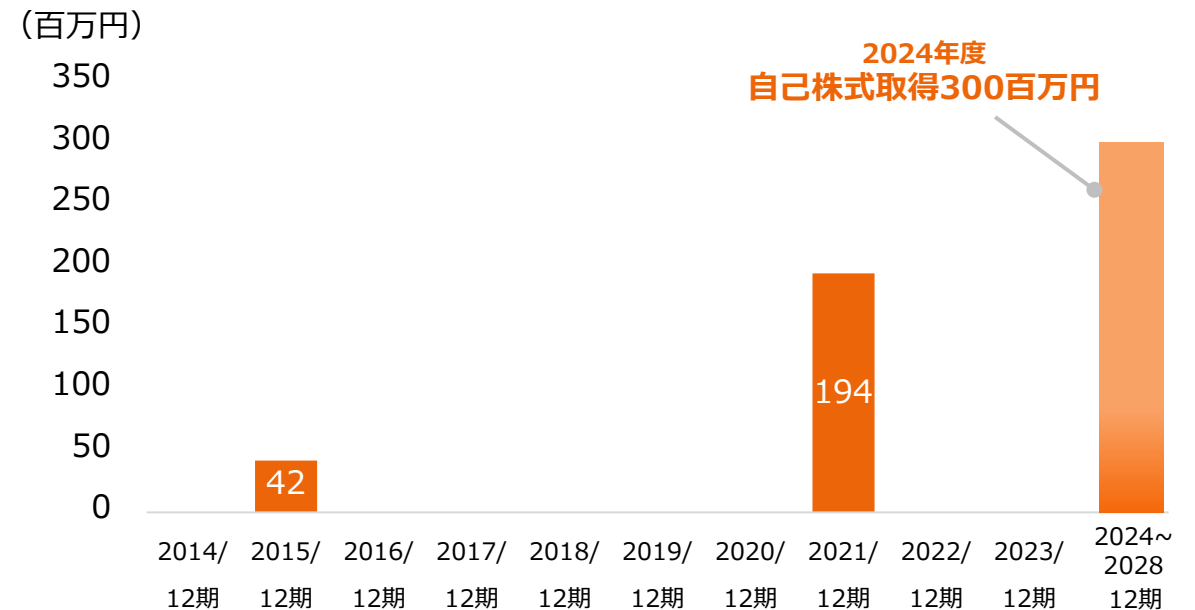
配当政策

DoE3.5%と配当性向60%のいずれか高い方を基準とし、
1株あたり配当金を引き上げ



自己株式取得

2024年度総額3億円の自己株式取得を実施



STEP 2

IT活用による商社ビジネスのグローバル化：高収益体質への転換

IT活用による商社ビジネスのグローバル化及び安定的な高収益体質への転換

①グループ間のデータベース共通化

- 現在活用している商品データベースをグローバルビジネスの展開に向けて改修
- 海外販売ネットワークを拡大し、海外売上の増加及びオペレーションコストの削減を企図

②生成AI等を活用したデジタルマーケティング実装

- 生成AI等を活用し、商品ポートフォリオの適正化やグローバルなサイトを意識した効率的なWEB制作等、マーケティング機能の強化を企図

強みの更なる強化

当社グループの強みと顧客への付加価値

商品力
業界最大級の
品揃え
(1,200万品目)



情報力
適時的確な
商品情報の提供



物流
迅速な
物流サービス



技術力
サービス/
商品の独自開発

STEP 2

IT活用による商社ビジネスのグローバル化：Scientist³の早期拡大

■ 当社を介さずとも、ユーザーとサプライヤーのマッチングを可能とする合理的な仕組み



既存ビジネスの強み/実績

- ユニークな技術を有する多数の国内外サプライヤーとのコネクション
- 長年のユーザー（製薬企業や公的研究所等）との取引で培ってきた信頼関係

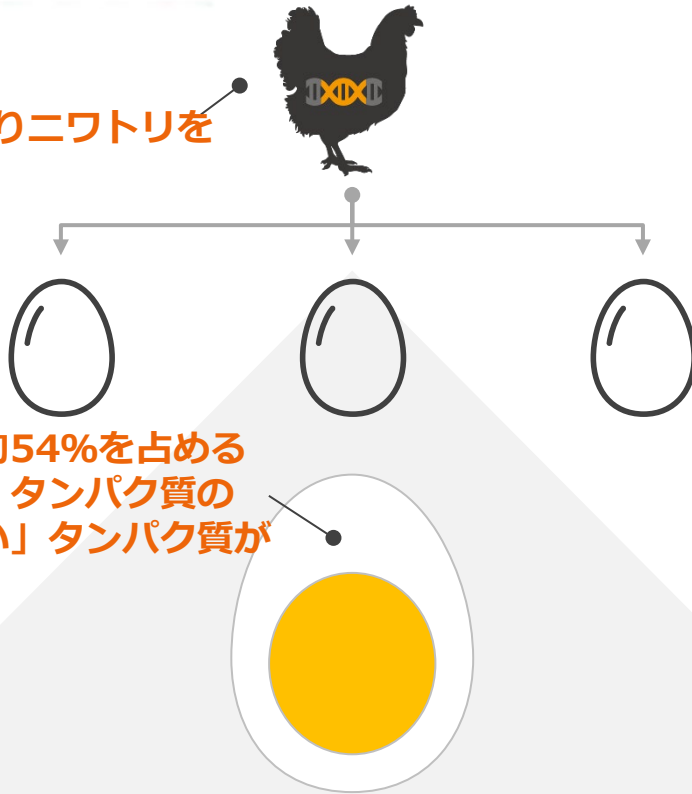
STEP 3

新規ビジネス創出による収益源の拡大：鶏卵バイオリアクター事業の概要と強み

■ 鶏卵バイオリアクター事業概要

ゲノム編集済みニワトリ

ゲノム編集によりニワトリを
遺伝子改変



「欲しい」タンパク質を、卵の中に量産

■ 技術的優位性

1

独自の遺伝子改変技術

- 世界初の“ゲノム編集を用いた鶏卵バイオリアクター技術”（特許取得済）。
- 産業技術総合研究所から特許実施許諾および技術サポートを受けて**当社が事業化**。

2

「欲しい」タンパク質の大量生産が可能

- ヒトのタンパク質と同等の構造や機能をもつタンパク質が得られる。
- ニワトリの高い産卵能力により、従来手法以上の大量生産が可能。

3

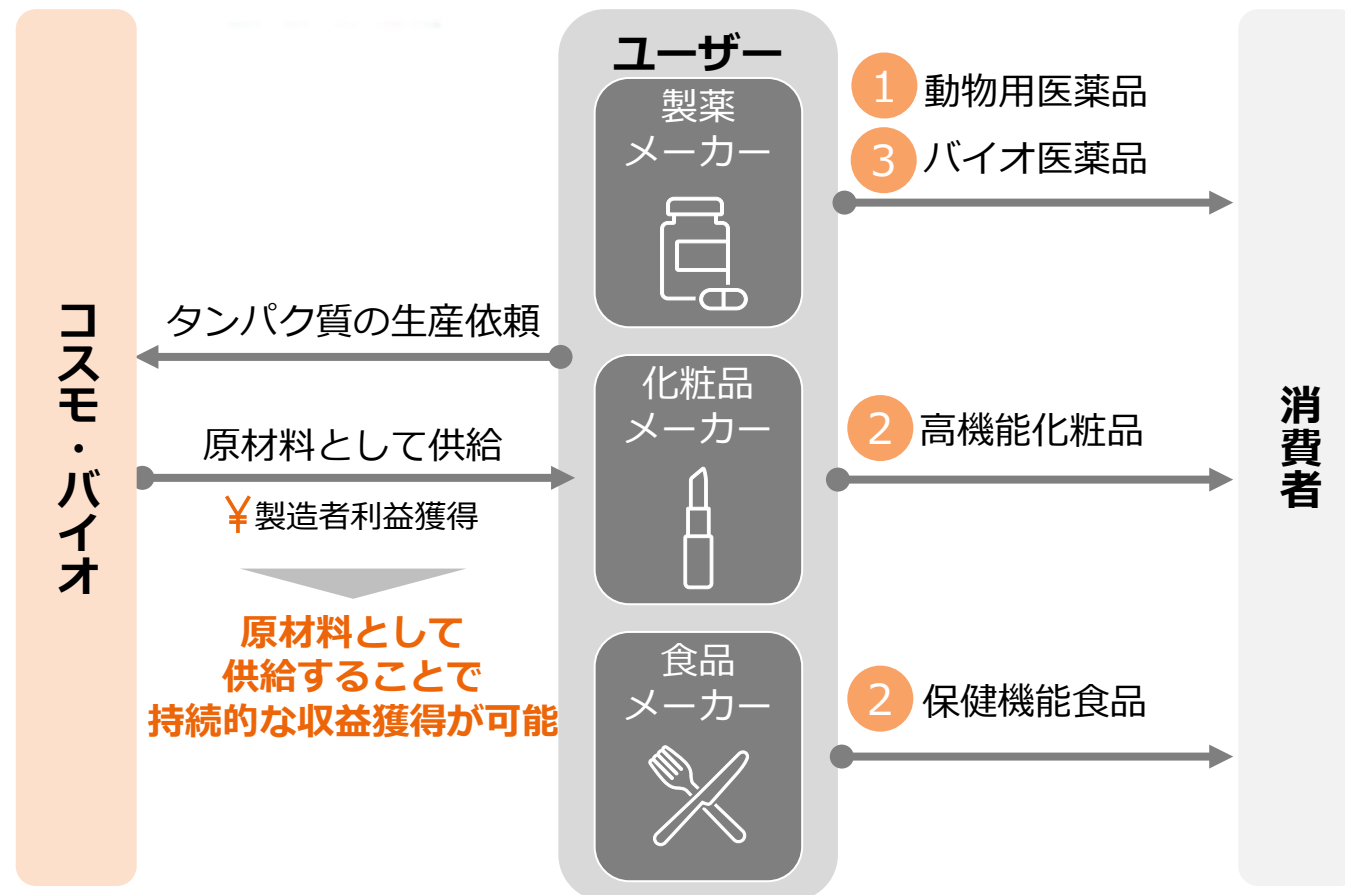
低コスト生産が可能

- 卵自体が無菌状態の「プラント」（工場）となるため、大型設備を要せず、低コストでの生産が可能。

STEP 3

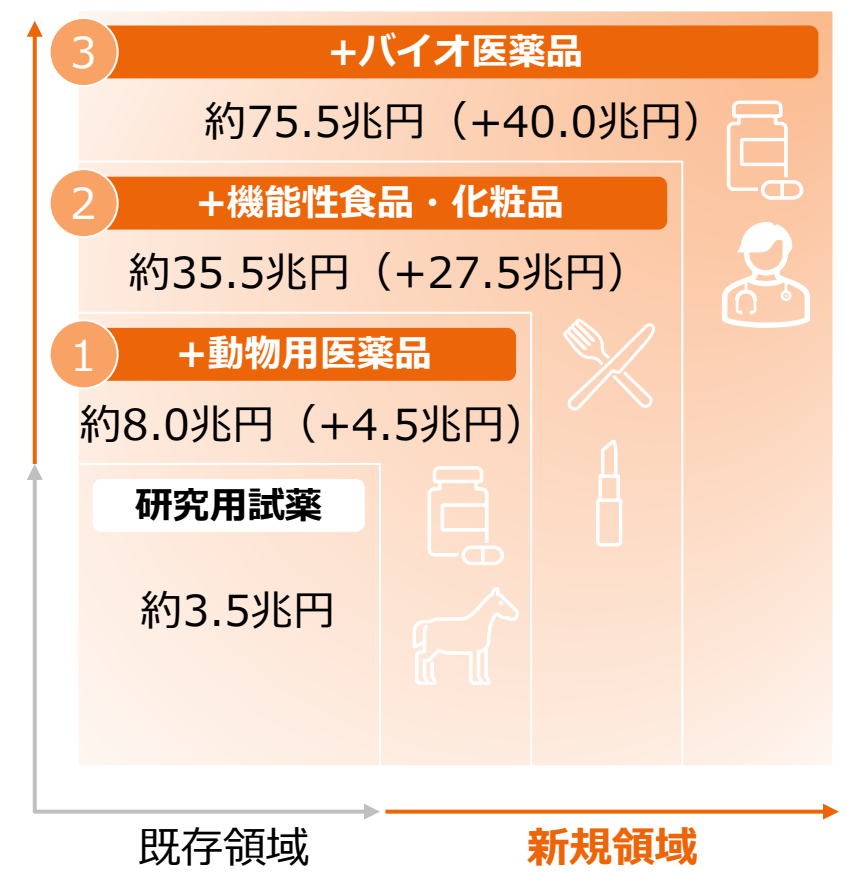
新規ビジネス創出による収益源の拡大：同事業のビジネスモデルと見据える市場

■ 同事業のビジネスモデル



■ グローバル累計市場規模*

※ () は累計ではなく、各市場規模の数値を記載



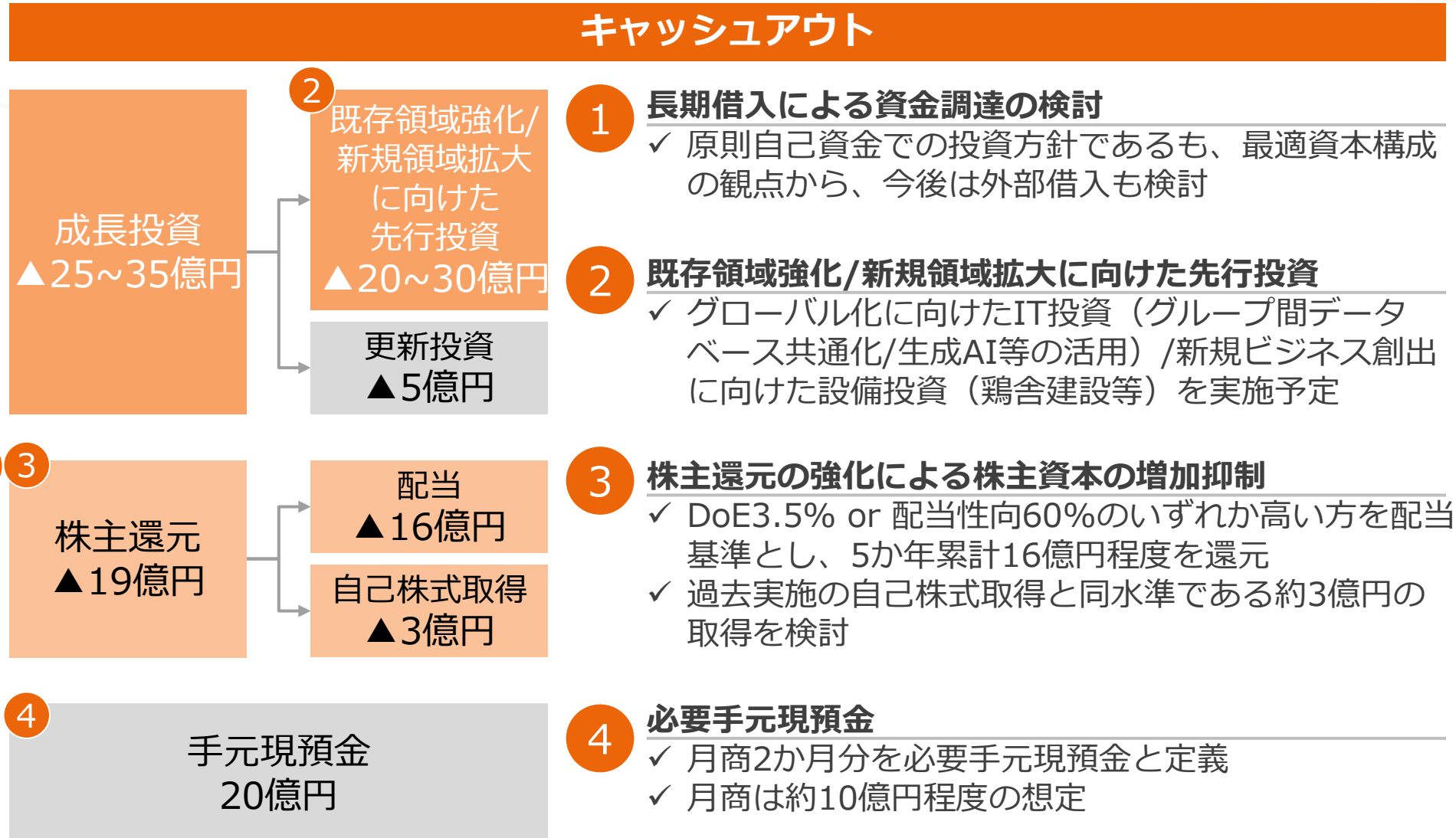
*(出所)
 「世界の動物用医薬品市場に関する調査レポート2024-2036」 「機能性食品の世界市場2023-2030」 「機能性化粧品市場：機能別、用途別-2024-2030年の世界予測」
 「世界のバイオ医薬品市場に関する調査レポート2024-2036」より引用

キャピタル・アロケーション方針

キャッシュイン

- 1 借入による調達
+ 0~10億円
- 社債等の利活用
+ 10億円
- 営業CF(累積)
+ 32億円
- 手元現預金
2023年12月末
28億円

» 3



(ご注意)

本資料に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。



人と科学のステキな未来へ

コスモ・バイオ株式会社

《IRに関するお問い合わせ先》

コスモ・バイオ株式会社 総務部

ir-contact@cosmobio.co.jp

《当社IRサイト》

<https://www.cosmobio.com/jp/ir/>